

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年10月2日 NO.45

花ちゃん 「あーあ、ヒガンバナのお花も
お彼岸がすんだら、元気が
なくなっちゃったみたいね。」

オー君 「そう言えば、そうだね。」

花ちゃん 「あーあ、つまらないな。
もっとずっと咲いていて
ほしかったのにな。」

オー君 「そう言えば、そうだね。」

花ちゃん 「何よ、さっきから、そう言
えば、そうだね、の連発
(れんぱつ) でしょ。私の
お話きいてくれるの。」

オー君 「そう言えば、そうだね。
でもね、植物って、一年のう
ちで、とっても美しくさく
というか、一番かがやくと
いうか、そんな時が必ずあるんだね。」

モンタ博士 「そう言えば、そうだね。オー君もなかなかいいことを言うね。ところで、ヒガンバナが咲き終わって、次は、何がさきはじめたかな。国立のあちこちをきょろきょろ見まわしてごらん。きれいにさき始めているよ。」

花ちゃん 「なんだろう。どんなお花かな？」

オー君 「今、きれいに咲いている花？なんだろう。」

モンタ博士 「それでは、ヒントをだそう。ヒントはねこの歌さ。1977年の歌さ。モンタ博士は、ちょっとオンチと言われているけど、がまんして聞いてね。」



コスモス（キク科）

♪♪♪うすべにのコスモスが秋の日の 何気ない陽だまりにゆれている

このごろ なみだもろくなつた母が 庭先で一つせきををする♪♪♪

オー君 「うわあー、オンチだ。たすけて！もうやめて！やめて！お願いデース。」

花ちゃん 「あんまり聞いたことのない歌ですが、だれの歌なんですか。」

モンタ博士「良く聞いてくれたね。この歌は『秋桜（コスモス）』という歌でね、20世紀のちょうスーパーアイドル『山口百恵（やまぐちももえ）』の歌なんだよ。すばらしい歌だろう。もちろん、百恵ちゃんも最高なのだ。」

オー君 「モンタ博士も、けっこうはまっていたんですね。でも、その山口さんという人はだれなの。おいら知らないな。今でもテレビに出ているの。」

モンタ博士「残念（ざんねん）ながら、もう引退（いんたい）してしまったんだけどね。それはそれはとってもステキな永遠のアイドル『百恵ちゃん』だ。」

花ちゃん 「モンタ博士、何だか、話がどんどんずれてしまうようですが…だいじょうぶ？」

モンタ博士「おっといけない。それじゃ、今日は、コスモスの花を『科学』しよう。」

オー君 「科学するって、どうするの。」

モンタ博士「簡単さ。コスモスの花をじっくりとよーく見てごらん。花びらは何枚かな。」

オー君 「1, 2, 3…8枚かな。あれ、真ん中に何かあるけど、何だ。」

花ちゃん 「うすべに色の花びらと、真ん中に黄色い細かいのがあるわ。」

モンタ博士「二人に、タンポポの花のお話をしたことがあったっけ。」

花ちゃん 「タンポポの花は、たくさんの花が集まっているというお話でしたね。」

モンタ博士「よく覚えていたね。タンポポの花は黄色いベロみみたいな花、これをむずかしい言葉で、舌（した）のようだから、舌状花（ぜつじょうか）というんだ。タンポポの場合は、舌状花ばかりでできているけど、コスモスはどうか。」

花ちゃん 「ちょっとちがうわ。コスモスは、真ん中に何かあるわ。」

モンタ博士「そうだね。それじゃ、続きはまたこんどにしよう。」

キバナコスモス

普通のコスモスとは別の種です。草の丈は低く、葉の切れ込みの幅が広いのが特徴。花は一重か舌状花が重なった半八重咲きです。名前はキバナコスモスだが、花の色は黄色、橙色、赤など変化に富みません。普通のコスモスにも黄色はありますが、これは、ピンクに黄色のすじが入った花から玉川大学農学部で改良されたものです。